

平成17年2月25日  
第11号

# 素流協 News

平成17年2月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

## 十七年度事業に向かつて

素材流通協同組合

理事長 下山裕司

平成十六年度における素流協の事業もあと二ヶ月となりました。

これまでの今年度事業の実行経過を見ますと、おおむね事業は順調に進捗して来ております。平成十七年一月までの素流協の販売実績が四四・四千㎡であり、残り二カ月の販売量を大略九千㎡と想定しますと十六年度販売量が五三・四千㎡となり、年度計画量を八%ほど上回るようになります。昨年度の素流協の販売実績が計画に対して七〇%でありましたから、素流協創立二年目にして計画的な事業実行を達成出来たということであり、これも会員各位の積極的な出材があったことと素流協の事業実行体制が整って円滑な事業運営が軌道に乗り出したことによるものと考えております。関係者のご努力とご協力に対し心から感謝

と敬意を表する次第であります。さて、年度末が間近かとなつて、十六年度の事業を健全な形で終了するために万全を期すことは当然

であり、新しい年度における事業の方向付けを検討する時期になりました。素流協の平成十七年度事業計画については、理事会および通常総会に図つて決定するものでありますので、これから述べます事項は、事業計画の策定に当たつて参酌すべき岩手県における素材生産事業をめぐる諸条件および経済情勢の見込み等についてであります。まず今後の経済情勢の見通し、とりわけ森林・林業にとつての経済環境はどう考えればよいかというところであります。日本の景気の動向は三十二ヵ月拡大を続けてきた景気動向指数が四ヵ月連続で五

〇%割れを示して景気の下降期に入ったのではないかとの観測が流れたりしておりましたが、最近経済関係の多くの専門家たちの意見を聞くと、現在は「踊り場」にあつて今後再び景気が上昇に転ずるとの観測が強くなっております。そうなりますと、これまでの日本経済の景気の上昇による波及効果が一次産業の林業にも及んでくることが期待されます。また、岩手県においても素材の需給関係に動きが出てきているという意見が業界内にも聞かれるようになってきております。また、素材産業（ここで言う「素材」は広い意味での産業素材）が活況を呈しておりますことから、木材生産事業も広い意味での素材産業でありますからこれらの経済動向に引つ張られることが予測されます。これらのことから平成十七年度の岩手県における林業生産活動は、近年の沈滞した状況を脱して活発化するのではないかと考えております。もちろん、林業生産活動が急激な上昇傾

向を示すとは考えませんが、これまでの状況に比較すればかなりの素材（丸太）に関する需給活動の活発化が起こると思います。

次に、丸太の需要と供給の形、構造の変化が進展するとともに素材流通システムの変化が顕現化を増すでありましよう。

上記のような理由から、平成十七年度の素流協の事業、具体的には素流協が扱う素材量は十六年度

に比して大幅に増加することになると考えております。

どの位の取り扱ひ量になるかは、今後事業計画を策定する段階に各種要件に基づき十分に検討しなければなりません。例えば、今年度（十六年度）に青森県の賛助会員からの出材量が二、八〇〇㎥でありましたが、十七年度には青森県から一万㎥超の出材が見込まれております。わが岩手県の林業生

産活動が活発化することは大変に喜ばしいことでありますので、素流協としては自らの役割を十全に果たすために十分な検討に基づく十七年度事業計画案を作成して会員各位に諮るとともに事業運営の体制整備を一層進めていくことにしております。今後とも会員各位の意見を聞く機会を設けていくことにしたいと考えております。

### 今月のトピックス

#### 素流協より

今年一月、左記の方一名が素流協の会員となりましたのでお知らせいたします。

一、住所 岩手郡滝沢村滝沢字 砂込六一―二

会社名 松村林業 松村優

入会日 平成十七年一月二十

四日

### ヒロシの独白

## 『現下のわが国の

## 森林・林業を考える III』



○「森林」を現代の人々ほどのように認識しているのか（その2）

先月号において「森林」に対する現代人の認識に関する調査結果について述べましたが、この調査結果についての私なりの考察を加えてみたいと思います。

日頃都会に住み、日常的に森林

に接していない、「知識・教養」としてのみ森林を捉えている人たちの中には、自分たちが理解する森林こそ「森林の全て」だと考えたり、自分たちのみが森林について考え・語る資格があり、「正しい森林を見るころ」を持っていくと主張するような場合がありま

す。たしかに、自分なりに森林を単一の機能や価値に焦点を合わせて見るころは、その限りにおいては間違いではないかもしれせん。なぜなら森林がそのような機能や価値を持っていることは、ある側面から見れば正解であるかもしれないからです。しかし、森林

の一面だけの理解に基づく森林の見方に固執するならば、それは森林の他の面（多様な機能や価値）を考えないことにつながりかねないのです。これは大変危険なことであります。森林は、いろいろな働き（機能）を持っており、総合的で複合的な存在であります。したがって、木材生産だけの視点とか、自然保護だけの視点だけで森林を見てはいけません。この際、私たちは、森林がある特定の機能や価値のためだけに存在するのではないことをしっかりと認識

することが大切であります。

現代人の大きな関心の一つは、「生活環境の保全」についてであります。近年、人間の住んでいる環境をきれいに保つという要求は、広く深く広がっています。

環境保全に関して森林が果たしている役割は、現在ではほとんどの人たちが大なり小なり承知しているといってもよいと思います。

ただし、森林がどのような形で環境保全に役立っているかという点になると、非常にパターン化（典型的・形式的）された理解がなされているのではないかと、別の言い方をすると、画一的というか通り

一遍の理解に留まっている感じがするのです。例えば、「木材生産のための森林については人手を加えなければならぬが、生活環境の保全のための森林については、

自然のままがよく、人手を加えない方がよい」と考える人がかなり多くあります。しかし、これは間違いであります。わが国のよう

な地理的・気象的自然条件のもと

では、森林を放置しておく密林のようにあります。そして、むしろその森林は、人間の存在を脅かすものになる危険性が高いのであります。それ故、ある特定の目的から人手を加えない原生的な森林を残すことが必要な場合があると

しても、一般的に自然と人間が共存するためには、森林には人間の手を加えることが不可欠であります。人手を加えることによって森林は生き生きとしたものになって、人間と共存が可能になることを忘れてはならないのであります。

一方、貴重な植物が生育したり動物が生息している原生林、学術性の高い天然林に手をつけずに残していくことは極めて大切なことであります。ただ気になるのは、原生林の大切さだけが強調されて、「森林はすべて原生林でなければならぬ」と考えたり、「森林に人手を加えることはすべて悪い」

ことのように言う人も結構居ることです。人工林において枝打ちを

している人を指して、自然観察会

のリーダーが子供たちに「君たちは木をいじめるような大人になるな」と言ったという話や、ある自然保護運動のリーダーが「農山村が過疎になれば自然が戻ってくる」と言ったという話を聞くと、怒ることを忘れて悲しくなってしまう。あまりに森林について知らなさ過ぎると思うのであります。こうした発言や発想に出会うと、農山村で森林・林業に係わっている人々がやりきれない気持ちになるのも当然であります。

いま大切なことは、森林を一面的に理解している人や「知識・教養」として観念的な森林観をもつ人に、「具体的な森林」とか「多様な機能をもつ森林」を知ってもらうことでもあります。そこで次号

において「森林の持つ経済外効果」の重要性について」と題して「森林の多様性」について述べてみることにします。

東北合板工業組合からの情報によると、厚物構造用合板「ネダノン」が月間生産量一〇〇万枚を超えるヒット商品になっております。ネダノンの複合タイプと呼ばれる製品は、組合員の皆様が現在素流協を通して合板工場に納入している丸太を原料とした製品であります。

### 二 案内

この国産材ネダノンの更なる可能性についての技術勉強会が盛岡市で左記により開催されることになりましたのでご案内いたします。

- 一、日 時 平成十七年三月二十九日（火） 午後一時～五時
- 二、場 所 盛岡グランドホテル
- 三、内 容 B1 飛龍の間

- 「国産材ネダノンの更なる可能性について」 国産材ネダノンの 更なる可能性について
- 「国産材ネダノンの流通事情について」 国産材ネダノンの 流通事情について
- 「国産材ネダノンの具体的な森林」とか「多様な機能をもつ森林」を知ってもらうこと

- 四、参加料 無料
- 私たちの出荷した丸太がどのような製品になっているのかを知る、大変よい機会と考えます。案内書は別途FAXにて送らせていただきますので、是非ご出席をご検討ください。

「国産材ネダノンの流通事情について」 国産材ネダノンの 流通事情について

「国産材ネダノンの具体的な森林」とか「多様な機能をもつ森林」を知ってもらうこと

「森林の多様性」について述べてみることにします。

# お知らせ

## 荷下し作業における 保護帽の着用について

FAXにてもお知らせしておりますが、保護帽の着用については、労働安全衛生規則第四八四条等により、トラックによる丸太運搬についても荷積み、荷下し中は保護帽の着用が義務となっております。



## 平成17年1月の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した合板用丸太の平成17年1月の販売実績は下記のとおりです。県北の雪の影響かホクヨー向けが昨年1月以来1年ぶりの月間2,000㎡割れとなりましたが、北日本向けは過去3番目に多い1,967㎡の出材量となりました。年間出荷計画量の49,600㎡の達成まで、2ヵ月を残してあと5,200㎡程となりました。100%をどれだけ超えることができるかが楽しみになってきました。

項目	長級	径級	販売先		計	累計	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)			樹種毎	樹種毎
樹種	m	cm	㎡	㎡	㎡	㎡	%	%
スギ	1.9	14上	623	894	1,517	13,719		60.7
	4.0	14上		604	604	8,900		39.3
	計		623	1,498	2,122	22,620	50.9	100.0
カラマツ	1.9	14上	751	210	961	14,751		95.2
	4.0	14上			0	744		4.8
	計		751	210	961	15,495	34.9	100.0
アカマツ	1.9	14上	348	260	608	5,638		94.3
	4.0	14上			0	338		5.7
	計		348	260	608	5,976	13.5	100.0
サワグルミ	1.9	18上			0	332	0.7	100.0
合計			1,723	1,967	3,691	44,423	100.0	100.0

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)において、保護帽をつけないで荷下し作業をするトラックがたびたび見られるとともに、これまで二度三度と労働基準監督署から厳しく指摘されておりますので、トラック運転手および運送会社に対して、必ず着用して作業するよう指導をお願いします。

# 落穂拾い

▽少し前の新聞に掲載された或る作家の随筆を読んでちょっと感じるがあった。若干長くなるが引用すると『その昔、竹槍を持ってでも戦え』と国が叫んだ言葉が、六十年の平和の後、国民の心の中に移行したように思えてならない。つまり、

普通の人々が戦争から目を逸らし、それが平和だと思えた時点で、「国を守るのは竹槍で充分じゃないか」と考え始めたのではないかということである。：水も安全も有料、平和だけが最後に残された奇跡の支給品と思っただろうか。竹槍でOKなら天国だけ。』とあった。

これを読んで、二つの思いを抱いたのである。その一つは、昔、竹槍で戦え、だったのが、今は、国の防衛は竹槍で充分だ、という多数の国民がもつ「平和に関する意識」を椰楡めいた「奇跡の支給品」と表現していることとで、誠に言いて妙と感じいた。もう一つは、この作家は「水も安全も有料」と言っているが、私は、いまだに日本国民の大多数が「水も安全もタダ」と考えているのではないかと思っただけだが、水も安全も有料という認識が一般的になったと知って嬉しくなった。